

モニタリング調査結果

種名： ヤマエンゴサク

調査者： N P O 法人境川の斜面緑地を守る会

調査地： 上鶴間

調査期間	気づいたこと
2018年3月 ～2018年4月	針葉樹の交ざる林内では個体数は減ったが、まだ残存している。河川管理用通路沿いでは9m×3mの範囲で安定的に生育を維持している。低木を除伐しササ刈りを行った旧河道沿いでは個体数、開花数が増えている。ジロボウエンゴサクに比べヤマエンゴサクは群生はかなりかたまっている印象がある。
2019年3月 ～2019年4月	針葉樹の交ざる林内ではササ刈りをしたものの、個体数はさらに減った。河川管理用通路沿いでも珍しく開花数が少なく、一つの花茎に咲く花の数も少なかった。しかし旧河道沿いの生育地は勢力を増していて、シラカシを伐採した林内でも個体数・開花数が増えているので、調査区だけでなく林全体での各生育地の動向に注意して観察を続けたい。
2020年3月 ～2020年4月	針葉樹の交ざる林内では個体数が減ったものの40茎ほどを維持している。河川管理用通路沿いでは開花茎数がさらに減って100茎ほどとなった。しかし旧河道沿いの群生は勢力を増して50茎以上となり、勢力を落としていく群生と勢力を増していく群生がある。ササ刈りなどで一気に勢力を増しても10年以上経過すると勢力に衰えが見られ、群生にも寿命があるのだろう
2021年3月 ～2021年4月	針葉樹の交ざる林内では88茎と増加した。河川管理用通路沿いでは開花茎数がさらに減少し40茎ほどに。旧河道沿いはさらに勢力を増して83茎となった。群生の栄枯盛衰がさらに明らかとなる。その他に20茎ほどまとまった群生を2カ所で確認している。
2022年3月 ～2022年4月	③の河川管理用通路沿いの開花数は60茎で、去年の40茎からやや持ち直している。⑥は去年の88茎から減少し30茎となった。旧河道沿いは去年の83茎から激減して10茎であった。開花数が減少した⑥と旧河道沿いは開花時期に共に草に覆われていたことから、開花前までの生育地管理を行い様子を見たい。すでに⑥は12月に笹刈りを行った。旧河道沿いは草の繁茂が進むようであれば手を入れて様子を見たい。
2023年3月 ～2023年4月	③の河川管理用通路沿いは67(昨年60)、⑥は24(昨年30)、旧河道沿いは24(昨年10)であった。⑥は一昨年の88から激減。昨年笹刈りをした。旧河道沿いも一昨年83から激減。ヤエムグラを抜き取った。この方法で様子見。
2024年3月 ～2024年4月	③の河川管理用通路沿いは50(60→67→50)。⑥は21で昨年と大きな変化はない(30→24→21)。ヤエムグラの抜き取りを行った旧河道沿いは30(10→24→30)。この3年間で大きな変化はないが、旧河道沿いのヤエムグラ抜き取りは有効かもしれない。観察地以外に新たな集落が生じて、集落数は7カ所になった